

対話するからだところ ー ボームのダイアログ ー

脇本佑紀

13 Jan 2018

はじめに

お名前などと、いまの（からだの、こころの、思考の）「姿勢」を教えてください。

- （肉体的に・思想的に）力んでいる箇所・リラックスしている箇所
- 空気の感触
- 億劫なこと・気が進むこと
- et cetera...

proprioception

自己受容性感覚，固有受容感覚：自己の体の各部の位置，運動，緊張を認知する深部感覚（ロベール仏和大辞典）

「俳優は、自分の動き、意志、感情、思考を感じなくてはならない。それは、意志があれやこれやの動き（プラーナ）を行わせるためであり、動きが意味のあるものになるためにだ」

俳優が〈我あり〉の状態に入り込んだとき、「観客の前で創造するという正常ではない条件にも関わらず、俳優の精神的、身体的器官は舞台上で、人間の法則に従い、実生活におけるのと同じように正常に働く」

私は、何時間も動かずに、周りで起こる出来事を観察し続けることができる。このような観察力、そして身体の運動や一般的な運動を知覚する能力は、ダンスを解説したり、振り付けを伝えたりするのに役立つ。静止していると、視覚はもちろんのこと、聴覚や嗅覚や触覚などの諸感覚が目覚め、その感覚の覚醒から思考も活発になる。祖母に伝授されたあの習慣のおかげで、生まれてから今日まで、「固有受容覚」というものを発達させ、鍛え続けてきた。固有受容覚は、私の振付創作活動における大切な要素である。手元にあるラールス辞典では、「固有受容覚は、骨や筋肉、腱や関節の感受性を請け合う末梢神経の組織と結ばれている。それは、姿勢や運動についての情報を与える神経系が有する一つの感覚能力である」とされる。

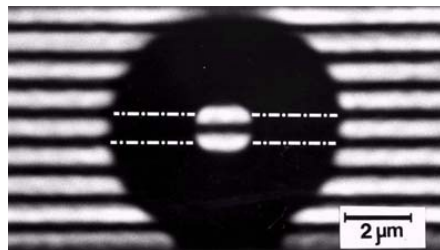
David Bohm について



www.wikipedia.org

David Bohm (1917–1992)

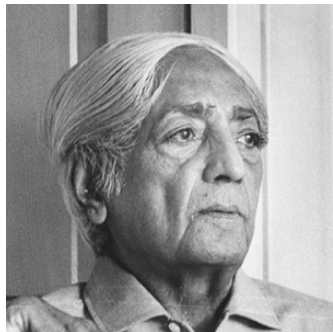
理論物理学者。物理科の学生は誰もが Aharonov-Bohm 効果にその名を認めたことがあるであろう。物理学の枠内にとどまらない、探求の人であった。



ethw.org

ドーナツ状の磁石を超伝導体が包んでおり、マイスナー効果により磁場は外に漏れない。にも関わらず電子波の位相が半分ずれている。AB 効果の完璧な立証を目指し、Yang の助言を受け外村彰によって実現された。半分ずれているのは、磁束が量子化されており、かつ奇数本の場合を撮影したため。

David Bohm と Jiddu Krishnamurti



www.kfionline.org

Jiddu Krishnamurti जिदू कृष्णमूर्ति (1895–1986)

Krishna कृष्ण はクリシュナ神から、murti मूर्ति には像・姿・～の顕現といった意味がある。日本語版 wikipedia では「宗教的哲人、教育者、神秘家、ヨーギー」、英語版 wikipedia では 'a philosopher, speaker and writer' と紹介されている。自ら宗教組織や権威を否定した。"Truth is a pathless land" の語が有名。

全く異なる分野の二人の、対話



picture : bohmkrishnamurti.com

audio : www.jkrishnamurti.org

Krishnamurti に対する Bohm の感想

私は初めて彼に会い、そしてそのときに私は彼とのコミュニケーションがとてもスムーズに運ぶことに衝撃を受けました。それが可能となったのは、彼がとても集中したエネルギーで耳を傾け、私の言わんとすることに対して彼が何の自衛的な隠しごともせず、何の壁も築くことなく応ずるせいでした。科学に携わるものとして私は彼のこの対応に全くの居心地の良さを覚えました。というのは、それが、他の科学者たちと接してきて、彼らと非常に親しい精神的な出会いをしてきた私が目の当たりにしたその人たちの質と本質的に同じ質だったからです。そしてここで私はとりわけアインシュタインのことを思います。彼は、彼と私との間で交わされた多くの議論の中で、同じような精神の集中性とそのような壁の不在を見せたからです。

- K 私の最初の質問は、思考はそれ自身の活動を見て取るのかということ、従って思考はそれ自身でその不毛さを見て取って止むのかということです。
- B 思考にはそのような力がないように私には思えます。

- B 心理的に我々は我々が中心から機能すると考えます。物理的には我々は中心から機能するように強いられます。何故なら身体が我々の知覚の領域の中心だからです。心理的に我々はそれを模倣します。我々は中心の思考を持ちます。そのようなことは物理的には役に立ちます、しかしそれが心理的に拡大されます。
- B それを探究しましょう。何故それは中心からなののでしょうか、なぜ記憶は中心なしにありえないのでしょうか？何故ただ単に記憶として、ただ単に情報としてありえないのか私にははっきりしません。

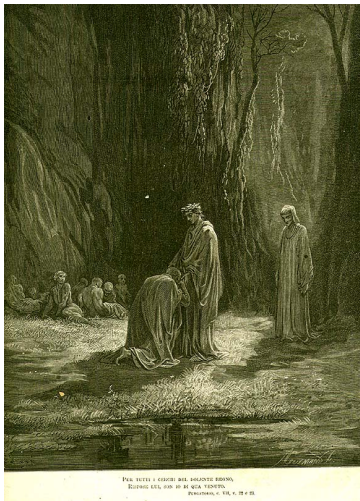
K　そして気づくことは愛の一部です、違いますか？従って、いかなる動機も持たずに、いかなる方向性も持たずに、その壁に――収集蓄積するその活動によって生み出されてきたその壁に――正に気づくことが叡智であり愛です。

「思考の限界」について

1. 思考（「収集蓄積するその活動」）そのものへの問題意識
2. Krishnamurti は「気づく」ことが大切だと言った。
3. みなさんはどう思うか？

4. Bohm は何を考えたか？

「朝な夕なに法を作る。掟で平和が守れるか。正義正義と騒ぎたて、裁き、追い出し、うまく行かねば新たな法だ。わがままな病人と同じことだ。痛い苦しいと寝返りをうち、それをベッドのせいにする。なおすべきはお前の体だ！」



‘Dispelling myths’ の要約：「学校改革においてまずなにに着手すべきか。最も多い間違いは、まず教え方を直すというものである。これには意味がない。(中略) カルチャーと生徒の態度・素行 (behaviour) をまず初めに直さなければならない。(中略) 5歳から18歳の子どもに教えている学校は、始めによい行儀 (good behaviour) を身に着けさせることができるので、うまく行く。多くの学校は不良行為 (poor behaviour) に「ゼロトレランス」方式で取り組む。しかしその効果は持続せず、生徒が反抗する場合さえある。生徒に必要なのは繋がっている感覚であり、排除ではない (students need to feel engaged, not excluded)。

校長の5つのタイプと特徴、結果

外科医	切除と移植	「患者を治すが、治療を止めれば再発する」
軍人	削減と締め付け	見えないコストが容赦なく上昇する
会計士	成長と投資	学校は豊かになるが、良くはならない
哲学者	討論と議論	彼らの滞在前後で何も変わらない
建築家	再設計と再考	唯一長期的な結果を残すが、時間がかかる

www.dukece.com/insights/4668

ちなみに Duke Corporate Education が発行する雑誌の名前が「Dialogue」

ボームのダイアログ

人類の問題はすべて、思考に自己受容感覚がない事実が原因だと言っていいほどだ。思考は絶えず問題を生み出し、それを解決しようとしている。しかし、問題を解決しようとして、さらに悪化させてしまう。というのも、問題を作り出しているのが思考そのものだと気づいていないからだ。そこで、考えれば考えるほど、さらに問題が発生する——思考が自分の行動に対して、自己受容感覚を働かせていないせいである。

対話の目的は、物事の分析ではなく、議論に勝つことでも意見を交換することでもない。いわば、あなたの意見を目の前に掲げて、それを見ることなのである——さまざまな人の意見に耳を傾け、それを掲げて、どんな意味なのかよく見ることだ。自分たちの意見の意味がすべてわかれば、完全な同意には達しなくても、共通の内容を分かち合うようになる。

誰もが意味を共有できるならば、それはともに参加していることになる。共通の意味を分かち合うわけである——食物を分かち合うのと同じように。我々は関わりを持ち、コミュニケーションをとり、共通の意味を作り出す。それが参加するということであり、「ともにする」とか「加わる」という意味でもある。こうして参加することによって、共通の考え方が生まれるが、これは個人を排除することにはならない。個人はそれぞれ別の意見を持っていて、そうした意見が徐々にグループの一部にもなっていく。

コヒーレント coherent な意味の実現

意味の共有という考え方は、（中略）個人と集団との間に存在するものであり、そこを動き回ることができる。そして個人と集団との調和を取っている。その中では全てがコヒーレントに絶え間なく動いている。つまり、集合意識と個人意識という、二つの意識が存在し、その両者の間をあたかも川の流れのように意味が流れているのだ。したがって、意見というものはあまり重要ではない。最終的に、すべての意見からどれかを選択することになるかもしれないが。やがて、我々はそうした意見を越えて、別の方向へ、つまり創造的な新しい方向へと動き始めるのである。

社会とは共通の意味に基づくものであり、それが文化を構成していると私は考える。コヒーレントな意味を共有できなければ、優れた社会は作れない。現在、一般的に社会が持っている意味は非常にインコヒーレントである。

そして、おそらく対話グループにおいては、コヒーレンスという、非常に強いエネルギーがあれば、社会的な問題を解決するグループとして以上の何かを達成できるだろう。対話のおかげで、個人には新たな変化が生まれ、宇宙との関わりにも変化が生まれるはずだ。そうしたエネルギーは「霊的交わり (communion)」と呼ばれ、何かに参加することの一種である。初期のキリスト教にはギリシャ語の「コイノニア (koinonia)」という言葉が出てくるが、それは「共有する」という意味である——あらゆるものを分かち合い、交わるという考え方だ。単にグループ全体とだけでなく、すべてと交流し、分かち合うことなのである。

補足：「参加型思考と無限」における人類の三つの面

28

だが、多くの人にはもはや宗教という想定を信じていない。宗教は消え去り、人は自然から遠く離れ、哲学は混乱している。現代社会では、科学がある程度、人間と宇宙とをつなごうと試みているものの、限界がある。そして、どのみち科学をあまり理解できない人が多い。こう考えると、宇宙的な面とのつながりはかなり失われているように見える。しかし、人間には宇宙的な面をふたたび得たいという気持ちがあると私は思っている。それは人間にとって、個人的な面や集団的な面とともに、必要不可欠なものなのである。

ボームが提唱する「ダイアログ」の形式

- ・二十人ほど、多くても四十人「文化全体の一種の縮図が生まれる」
- ・「原則として、対話はリーダーを置かず、何の議題も設けずに行うべきだ。」
- ・「対話グループでは、どのようなことに関しても決定を下したりはしない。この点が重要である。(中略) 人は何かをしろと義務づけられていない、空白のスペースを持つ必要がある。」
- ・「対話グループは特定の目標を持つな、確かな目標はとにかく定めるべきではないというのは、理不尽な要求でもないだろう。」
- ・「想定や反応がどんなものかを、ただ見るだけにしよう(中略) 他人の意見を変えようとしてはいけない。」

「べてるの家」についてほんの少しの紹介

『べてるの家の「非」援助論』から、概要

「浦河べてるの家」とは、精神障害をかかえた人たちの有限会社・社会福祉法人の名称。北海道浦河町で、共同作業所・共同住居・通所授産施設などを運営しており、事業に参加している人たちの総数は100人を越える。

1980年に回復者クラブ「どんぐりの会」の有志が教会の古い会堂を住居として借り受け発足した（べてるの家と名付けられたのは1984年）。後に昆布の下請け作業から自前での製造販売を開始、さらには地域での介護用品の販売に取り組み、1993年には有限会社、2002年には社会福祉法人を設立した。それぞれの代表は、回復者のメンバーがつとめている。

『べてるの家の「非」援助論』から、概要

「弱さを絆に」「三度の飯よりミーティング」「昆布も売ります、病気も売ります」「安心してサボれる会社づくり」「精神病でまちおこし」などをキャッチフレーズに、年商1億円、年間見学者1800人、いまや過疎の町を支える一大地場産業となった。

幻聴や妄想を語り合う「幻想&妄想大会」、精神分裂病者のセルフヘルプグループ「SA」等々、世界の精神医療の最先端の試みが、ここ北海道の浦河という小さな町で既に根を下ろしていたことでも注目を集めている。

- ・『一九八八年に日高昆布の産地直送に乗り出して以来一〇年間で、年間一億円の売り上げを達成するまでになった。このべてるを支えてきたのはただ一つのことである。「ミーティング」をすることであり、「話し合う力」を育てることだ。』
- ・『リハビリテーションからコミュニケーションへ』『昇る生き方から降りる生き方へ』
- ・ べてるの「場の地力」として述べられていること
 1. 当事者と職員間のコミュニケーションの一元化
 2. 問題を探したり解決しない
 3. 規制の緩和

おわりに

いまの（からだの、こころの、思考の）「姿勢」を教えてください。

- こころの、思考の中で渦巻いているもの
- からだの感触
- 何処へ動き出そうとしているか
- なぜこの提起のタイトルは「対話するからだところ」だったと思うか
- et cetera...

1. デヴィッド・ボーム「ダイアログ 対立から共生へ、議論から対話へ」英知出版株式会社（2007）
2. J・クリシュナムルティ、デイヴィッド・ボーム「思考の限界—知性のまやかし—」創英社／三省堂書店（2016）
3. 浦河べてるの家『べてるの家の「非」援助論——そのままでいいと思えるための25章』医学書院（2002）
4.